

はじめに

いま日本は、太平洋戦争の敗戦以来、初めてむかえた大きな転換期にある。

戦後長い間、**日本という国は、デイズニールランド状態**にあった、と私は思う。外界と隔絶した閉鎖空間のなかで祭りに興じ、楽しくおもしろく平和を満喫してきたのだ。

戦争に勝ったアメリカは、日本に新しい憲法を押しつけ、第9条を認めさせた。憲法9条を掲げるとは、日本人の手で日本国の安全を守らないということである。そんなことは容認できないという勢力もあったが、日本の指導層の多くは「しめた」と思った。

それがアメリカの要求ならば、日本はアメリカに守ってもらえない。力ネがかかって面倒で、**国民にも不興な軍事面はアメリカにまかせ、日本人は全精力を日本の復興に注げばいい**。そう考えた政治家の代表は吉田茂である。この思惑が大成して、日本は奇跡とまでいわれた**高度経済成長**を遂げ、**世界第二位の経済大国**に躍り出たのだった。

このことをアメリカも、ある程度までは歓迎した。日本には太平洋の東端で対ソ連・対中国の橋頭堡きやうとうほという役目を果たさせるべきだ。だが、**アメリカを脅かすような軍事力**を持

たせるわけにはいかない。だから、沖縄に駐留する米海兵隊司令官が「在日米軍は（日本が再び軍事大国になるのを抑える）ビンのふただ」などと発言するのである。

当然のことながら、以上はアメリカが世界の警察官としての実力を備え、その使命を果たしていることが大前提となる。そして、そんな時代が確かに長く続いた。

しかし、ここに来て状況は大きく変わった。東西冷戦に勝ったアメリカが、1990年代半ばの金融立国で繁栄の絶頂にあると見えたのは錯覚だった。リーマン・ショック以後アメリカは深刻な財政難に陥った。世界経済に本格的に参加した中国はじめ新興勢力の追い上げも急で、もはや世界の警察官としての役割を断念せざるをえなくなってきた。これ象徴するのが、オバマ米大統領が打ち出した軍事費の削減計画だ。12年10月に始まる2013会計年度からの5年間で2590億ドル（約20兆円）をカットする。二正面作戦の放棄も、海兵隊員4700人の沖縄からグアムへの移転計画も、同じ文脈にある。

だが、海軍力を著しく強化する中国を警戒してアジア・太平洋地域の重視を打ち出したアメリカは、日米安全保障体制における日本の負担をもっと増やせ、と強く迫ってくる。自衛隊の行動範囲も活動内容も、もっと広げろと要求しているのだ。

日本が、国の安全をアメリカに委ね、デイズニールランド状態を謳歌してきた時代が、いま終わろうとしている。このまま古い発想と体制を続ければ、日本は自滅への道をたどりがねない。この大転換期を、日本はどう生きればよいのか。アメリカは何を考えているのか。アメリカと、どのように付き合っていけばよいのだろうか。

そんな思いをめぐらせているとき、私はケビン・メアというアメリカの元外交官と出会った。30年近く外交官だった親日派の彼は、日米間に横たわる川の深みや浅瀬や難所に、とても詳しい。彼は、決断できない日本にイラだちを募らせているようだ。彼のイラだちは、アメリカという国が日本に対して感じているイラだちと同じに違いない。

そこで、ケビン・メアさんと十数時間かけて、普天間問題、沖縄問題、日米安保問題、TPP問題、原発問題、中国・北朝鮮問題などを徹底的に議論した。読者も私とともに日本の新しい生き方を考え、自分の生き方やビジネスに存分に役立ててほしい。

本書をまとめるに際しては、アスコム高橋克佳、同小林英史、ジャーナリスト坂本衛の諸氏の同志的な協力を得た。感謝して筆をおく。

2012年3月

田原総一朗

はじめに 3

第1章

沖縄・普天間、アメリカはここにイラついている！

アメリカにとって沖縄は「太平洋の要石」である 14

何でもアメリカのせいにして、日本政府はなぜちゃんと説明しない 16

そもそもなぜ、普天間飛行場を移転することになったのか 23

日本側のギブアップや紆余曲折をへて、やっと現行案に落ち着いたのに…… 24

ラムズフェルド国防長官は「世界一危険」とは言っていない！ 26

普天間は特別危険な飛行場ではない 30

基地周辺に住宅や小学校が建てられたのは、市が許可したからである 32

普天間が固定化されても、米軍には何の不都合もなし 36

第2章

民主党の迷走、アメリカはここにあきれている！

アホかと思った、鳩山首相の「最低でも県外」発言 40

「政権交代をしたから国家間の取り決めは白紙」なんてあり得ない 42

民主党の「新しい提案」は、言い古された「ボツ提案」ばかり 45

海兵隊員の命にかかわる問題だから、県外移設は絶対譲れない 47

外務省も外相も「辺野古しかない」と覚悟していたはずだ 49

在日米軍自体に反対の社民党と連携すれば話がまとまるワケがない 51

「選挙が近いから決断できない」は、日本政府の伝統的な言い訳だ 53

なぜ鳩山首相はすぐに沖縄に行こうとしなかったのか？ 55

沖縄の人びとを裏切った鳩山首相の罪はとても重い 57

沖縄県民の100%が、米軍基地に反対というわけではない 59

「地元のコンセンサス」にこだわるから、結局、何も実現しない 61

大騒動になった沖縄防衛局長の「犯す」発言はこう考える 63

オフレコ発言を勝手に報道するのは裏切り行為ではないか？ 65

記者たちは、なぜその場で抗議しない？ 66

日本の新聞は、真実には関心がなく、大騒ぎが好きなだけである 69

沖縄をいつまでも被害者のように扱いつづけている 71

政治家たちが、沖縄の人の被害者意識を利用している 73

野田首相が沖縄に行っても説得できない理由はこれだ 75

第3章

日米安保、アメリカの本音はこれだ！

わずかな抗議で、国家間の安保政策が妨害されるのはおかしい
民主党政権下で、知事も議会もみな辺野古移転反対になってしまった 77
知事が「辺野古でやむを得ない」と言える環境をどうつくるか 80
強い指導力を発揮しなければ、沖縄の問題は絶対に解決しない 82
グアム先行移転は、しびれを切らしたアメリカのメッセージである 85

今こそ日本政府は、国民にきちんと「安全保障」について説明すべきである 90
「海兵隊がオーストラリアに行くから普天間はいらない」は間違いである 92
北朝鮮がノドンを撃とうとしたら、日本はどこまでできる？ 94
「専守防衛だから、ミサイル発射前に攻撃できない」はヘンである 96
在日米軍が常駐するのは、日本の安全・平和のためだけではない 98
あの大戦争を戦った日米が同盟していることは奇跡である 101
安保条約の非対称性を問題にするのではなく、どう貢献できるかを考えてほしい 104
同盟国を助けられない集団的自衛権は、もう変えるべきである 106

第4章

TPP、アメリカの本当の狙いはこれだ！

在日米軍は、日本の軍事大国化を防ぐ「ビンのふた」ではない 108
第9条をなくして自衛隊を軍隊にするか、決めるのは日本人自身である 110
キッシンジャーとゴルバチョフは、日本の憲法改正に大反対だった 111
米軍と自衛隊は「矛」と「盾」で役割分担している 113
尖閣諸島と竹島で、アメリカの対応が異なる理由はこれだ 115
中国が尖閣諸島を占拠すれば、米軍は自衛隊と一緒に戦う 117
日本が竹島を武力で取り戻そうとしたら、アメリカはこうする 119
北方領土・竹島・尖閣諸島、アメリカは対応を明確に区別している 120

私が「知日派外交官」と言われたワケ 126
在日大使館時代に、激化する日米経済摩擦で見たものは…… 129
日本がスキー板の輸入を認めなかった理由は「雪質の違い」！ 131
「アメリカの外圧」を持ち出すのは、官僚と政治家の責任逃れである 133
日本のTPP参加は、外圧の結果ではない！ 135

第5章

「すべての国にメリットがある」がアメリカのTPPのスタンスだ 137
日本の成長のために、農業を自由化すべきである 138
日本経済が成長できない元凶は「円高」ではない 141
バブル経済は、日本人が伝統的な文化を忘れたから起きたのではないか 143
バブル崩壊以来、日本人は自信を失いすぎている 145
貧困大国でもあるアメリカが、なぜ将来の展望を持てるのか 147
80年代のアメリカは、日本が経済的に強くなることを恐れていた 149

日本と中国、アメリカはどちらが大切か？

TPPはアジアを巻き込んで中国を孤立化させる戦略なのか 152
資本主義化を進める中国を、アメリカはこう見ている 154
中国共産党の独裁は、10年後には終わっている！ 159
アメリカと中国で、アジアの奪い合いが始まった 161
日米中を「正三角形」の関係にしたら大変なことになる 163
日米は重要な同盟関係で、米中関係とはまったく違う 165
中国が高度成長を続けたのは一党独裁だからか 167

第6章

自滅するな日本、決断せよ！

日本はサイバーセキュリティが甘すぎる 169
中国がTPPに参加したいと言ったら、アメリカはどうするのか 171
今すぐ対中戦略を持たないと日本はやられてしまう 173
中国が軍事大国化すれば、アジアで冷戦が激化する 175
やがて始まる中国国内の混乱が、アジアを不安定にする 177
民主化の過程で、反日に名を借りた反政府運動が起こる可能性がある 178

2012年、各国の権力交代で世界はこうなる！ 182
若き金正恩が率いる北朝鮮はこうなる 186
日本は、核ミサイルの製造技術をすでに持っている 188
核兵器の保有を日本の国民は許さない、とアメリカは見ている 190
軍事的にも日本が核兵器を持つ意味はない！ 192
北朝鮮に対して必要なのは交渉よりも圧力である 194
アメリカが中国に弱腰なのは、ダメされているから？ 196
中国が国際ルールに従うように、アメリカも強腰にならない 197

第1章

沖縄・普天間、 アメリカはここにイラっている！

アジアの海で中国と衝突したとき、日米同盟が抑止力となる
199
イランの核開発問題は、世界でいちばん危険な問題である
201
アメリカは、朝鮮半島がどうなることを望んでいるのか
204
核兵器より通常戦力のほうが抑止になる
206
「核兵器を持つな」と北朝鮮に言う資格がアメリカにはある
208
核兵器の導入を考える前に、直面している問題を解決すべし
210
中国が日本にミサイル攻撃をする可能性はあるのか
211
アメリカの対中国政策は厳しい封じ込め策に転換する
214
これから始まるのは、地球的規模の「エネルギー対立」である
216
根本問題を解決しないで、原発処理が進むワケがない
218
「決断できない日本」が決断するためには
221
いつまで「誰も責任を取りたくない国」を続けるのか
223
日本人は、自らの手で過去を総括せよ
224
日本は自滅なんかない！
227

アメリカにとって沖縄は「太平洋の要石」である

田原 メアさんは、1984年に在日大使館に赴任されてから、日本での勤務が19年に及びます。とくに沖縄総領事を務めるなど、沖縄問題にも詳しい。そこで、まず普天間基地^{ふてんま}の移設をはじめ沖縄の問題を議論したいと思います。

在日米軍基地の74・2%が沖縄にあります。日本人はみんな、沖縄に米軍基地が集まりすぎていると思っている。メアさんは、これをどう思いますか？

メア 集まりすぎているとは思いませんが、米軍基地が多いことは事実です。在日米軍は約4万8000人で、半分くらいが沖縄にいます。米軍基地によって沖縄に生じる負担は重いと認識しています。ただし、米軍基地の74%が沖縄といいますが、これは米軍専用基地（在日米軍専用施設）の面積の74%。米軍は日本の基地を自衛隊と一緒に使う場合がありますから、それも含めて米軍が使う基地の何%が沖縄にあるかを計算すれば、55%になる。もともと、どう計算しても、米軍基地が多いことは多いんです。

田原 なぜそうなった？ 沖縄は太平洋戦争の激戦地。米軍が苦勞して占領したから？

メア その歴史もあるけど、いちばん重要なポイントは沖縄の戦略的な位置です。沖縄は地政学的、軍事的に見てきわめて重要な場所にあります。中国は「接近阻止・領域拒否」(Anti-Access, Area-Denial)という対米軍事戦略を掲げている。敵を第一列島線の防衛線内に入れさせず、突破されても領域内では自由な行動を許さないという考え方ですね。第一列島線は九州南端から、南西諸島（大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島、尖閣諸島など）、台湾の太平洋側、フィリピンの西側、ボルネオ島（インドネシア）の西北側まで結び、南シナ海を囲んでベトナムに至るライン。沖縄は第一列島線上にあるから、ものすごく重要なところですよ。

田原 もともと第一列島線は冷戦時代に西側が共産勢力を封じ込めるために設定して、いまは中国の対米防衛ライン。いずれにせよ沖縄はその上にある戦略的な拠点だ、と。

メア しかも、沖縄―北朝鮮と沖縄―東京を比べると、沖縄は東京より北朝鮮に近い。沖縄―札幌と沖縄―ベトナムを比べると、沖縄は札幌よりベトナムに近い。

田原 地図上で那覇を中心にコンパスで円を描くと、半径1000キロ圏に韓国の釜山、

東アジアを 逆さまにすると…



第一列島線

九州南端から、南西諸島（大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島、尖閣諸島など）、台湾の太平洋側、フィリピンの西側、ボルネオ島（インドネシア）の西北側まで結び、南シナ海を囲んでベトナムに至るライン

各種資料より編集部作成

何でもアメリカのせいにして、日本政府はなぜきちんと説明しない

中国の上海や南京が、1500キロ圏に東京、韓国^{ペシヤン}のソウル、北朝鮮^{ピシヤン}の平壤、香港、フィリピン^{ピシヤン}のマニラが、2000キロ圏にロシアのウラジオストク、中国の北京、ベトナムのハノイが入る。沖縄は東アジアの主要都市の中心に位置しているんですね。
メア そうそう。だからアメリカは戦後、沖縄を「太平洋の要石^{かたいし}」と呼びました。そんな戦略的な位置にあるから米軍基地が多い。とくに海兵隊は機動力、即応展開能力が重要ですから、沖縄に常駐していることで朝鮮半島、台湾、東南アジア、もちろん日本本土にもすぐ駆けつけることができる。これがたとえば北海道だったら、遠すぎて機動力が削^そがれてしまう。

田原 しかし、沖縄県民から見れば、なぜ自分たちの島だけが米軍基地でほとんど覆^{おお}い尽くされているんだ、という話になる。県内の米軍基地は県面積の10・2%（自衛隊基地は0・3%）、で沖縄本島の18・4%（同0・5%）。これには強い不満がある。

沖縄が 「太平洋の要石」である理由

那覇を中心にコンパスで円を描くと……



半径1000キロ圏には、韓国の釜山、
中国の上海・南京が入る

1500キロ圏には、東京、韓国のソウル、
北朝鮮の平壤、香港、フィリピンのマニラが入る

2000キロ圏には、ロシアのウラジオストク、
中国の北京、ベトナムのハノイが入る

各種資料より編集部作成

メア 沖縄の人たちは、よく「なぜこの小さい島に、日本全体の半分以上の米軍兵士がいるの」と言います。日本政府は、理由をちゃんと説明する必要がある。でもいま話した沖縄の戦略的な位置や役割について、日本政府は以前からほとんど説明してこなかった。田原 昔から全然してこなかった。今もしてないよ。メア 最近、少し始めたけど、あまりはつきり説明していません。田原 ちよつと聞きたい。日本政府は沖縄の人たちにどんな説明をしていますか？メア たとえば、なぜ米軍再編を実行すべきか説明するとき、日本政府はよく「米政府と合意したから」というふうに言うんです。つまり、日本としての理由をきちんと説明せずに、アメリカが決めたせいにしてしまう。これがよくない。

なぜ日米が米軍再編で合意したかと聞けば、日本政府は「米軍再編計画が日米同盟に有利に働き、沖縄にも有利に働くから。沖縄にとっても大規模な負担軽減になります」と説明する。でも、いつも出発点は「アメリカとの合意」で、それより後のことしか説明しない。その前に日本政府は、なぜ日本はアメリカと日米安全保障条約を結んだのか、なぜ日本に米軍がいる必要性があるのかを説明すべきです。でも自民党政権も民主党政権も、国

沖縄に集中する在日米軍基地



各種資料より編集部作成

民にはつきりとは説明しません。

田原 はつきり言って、日本政府がそれを説明することは、一種タブーのようになってい
る、と僕は思う。タブーにしている理由は、そもそも説明する能力がないか、説明すると
きのリスクが非常に大きいかのどちらかでしょう。たぶん、どちらもだね。

メア 日米の安全保障体制について説明すると、責任を取る必要があるから、それを避け
ようとしているのだと思います。これは、非常に望ましくないことで、日米同盟の最大の
弱点につながってくると思います。沖縄県民も含めて日本の国民が「米軍のヘリコプター
がうるさい。航空路はなんとかならないのか」と質問や要求をするでしょう。すると日本
政府は、「米軍の運用上の問題だから、なぜそこを飛ぶのか不明」などと、わからないふ
りをして、なんでもアメリカのせいにしてしまう。そうではなく、なぜ沖縄に米軍の抑止
力を維持する必要があるか、そのためにどの部隊が沖縄のどの飛行場に必要か、その部隊
のヘリはどこで訓練してどの経路で飛ぶ必要があるか、と丁寧に説明すべきです。

田原 全然してないね。なぜ説明しないんだろう。

メア 責任を取りたくないからでしょう。私が駐日アメリカ大使館の安全保障部で働いて

いたとき、米軍の訓練などを新しく始める際には具体的にちゃんと説明しました。でも、外務省や防衛省の官僚は国会で質問されると、いつも「それは米軍の運用上の問題ですから、私どもは知る立場にありません」と答弁していた。それを聞いて私は、「えっ？ 昨日、電話で説明したでしょう。なんで説明しないの？」と思ったものです。そういうことが何度もあった。説明責任から逃げようとする政治家や官僚が多いんです。これは日米同盟の弱点という意味で深刻な問題です。なぜ米軍の存在が必要なのか、日本の国民にわからないままだと、同盟関係の基盤がどんどん弱くなってしまふ。

田原 日本国民には「米軍が沖縄に大勢いるのは、やっぱり日本が戦争に負けて占領されたから。沖縄ではアメリカの占領がまだ続いているんだ」と思っている人が多い。

メア そう考える人もいるでしょうけれども、最近の世論調査（内閣府が11年12月に発表した「外交に関する世論調査」）では、アメリカに親しみを感ずる日本人が82%もいる。

これは過去最多で主にトモダチ作戦（東日本大震災に対して行なわれた米軍による災害救助・救援および復興支援）のためだと思えますが、それだけではありません。東アジアの安全保障に対する日本国民の認識がどんどん現実的になってきたからだと思います。まだ

充分ではないと思いますけれども。

そもそもなぜ、普天間飛行場を移転することになったのか

田原 話を普天間問題に絞りたい。アメリカ海兵隊の普天間飛行場は、沖縄本島中部のやや南より、那覇市中心から北東に10キロほど離れ、宜野湾市のほぼ中央にあります。面積は480・5ヘクタールで羽田空港の4割弱、成田空港の半分近い。いまは周囲が住宅に囲まれていて、非常に危険な基地であると。イラク戦争のときのラムズフェルド米国防長官も「こんな危険な基地はない」と言ったんですね。

だから沖縄県民は、「危険だから移設してくれ」と言った。日本政府は「わかった」と。アメリカ政府に「移設していいか」と聞いたら、アメリカは「代替基地があり、海兵隊のプレゼンスが損なわれなければいいよ」と言った。これが1996（平成8）年4月の普天間飛行場の返還合意です。そこで政府自民党が何年もかかって名護市辺野古への移設を決め、これは当時の沖縄県知事も名護市長も了解した。ここまで間違いありませんか？

メア 流れはちょっと違います。まず**1995年9月に少女強姦事件**がありました。3人の米兵が小学生の女の子をレイプした、悲劇的な事件です。

田原 副大統領もつとめた当時のモンデール駐日大使は「3人のけだもの（アニマル）による言語道断の忌まわしい事件」と最大級の表現で犯行を非難して、日本に謝罪した。クリントン大統領も謝罪し、国防長官や統合参謀本部議長などを相次いで訪日させた。

日本側のギブアップや紆余曲折をへて、やっと現行案に落ち着いたのに……

メア そうでした。当たり前ですけど、この事件に沖縄県民は爆発的に反応した。そこで日米政府は95年11月、日米安全保障協議委員会（SCC）の下に「沖縄における施設及び区域に関する特別行動委員会」（SACO = Special Action Committee on Okinawa）を設置し、沖縄にある米軍基地の整理・統合・縮小などについて検討を始めたんです。アメリカ政府も、**沖縄はとくに米軍基地によって生じる負担が重いと認識したうえで、どうすれば抑止力を維持しつつ沖縄の負担軽減ができるか考えた**。これが96年4月に返還合意に

至り、橋本龍太郎首相とモンデール大使が共同記者会見で発表しました。

この年の12月に出たSACO最終報告では、2001～2003年までに、沖縄本島の東海岸沖に代替施設を完成させてから返還することになっていた。でも、その後、代替施設の建設候補地は名護市東海岸に絞られたものの地元の反対が強く、環境影響評価を妨害していた反対派に対し日本政府は地元警察の出動を要請しなかった。そのため残念ながら日本政府は建設計画を実行できなかった。それで03年か04年ころに**一度ギブアップ**したんです。

田原 小泉純一郎政権の02年7月には、辺野古沖を埋め立てて2000メートル級の滑走路を造る「普天間飛行場代替施設の基本計画」がまとまった。でも、できないと。

メア だからまた交渉して、05年10月のSCC（通称「2プラス2」）。町村信孝外務大臣、大野功統防衛庁長官、ライス國務長官、ラムズフェルド国防長官が出席で合意しました。このときは辺野古にL字型に代替施設を造るという案。最終案（現行計画）が決まったのは06年5月のSCCで、滑走路はV字型の2本になりました。

05年以降の基本的な考え方は、新しい米軍基地の建設は政治的に不可能だということだ

普天間飛行場の 返還はどうなっているのか？



1995年	9月	米兵による少女暴行事件が発生
1996年	4月	日米両政府が普天間飛行場の返還で合意
	12月	普天間返還で合意した日米特別行動委員会(SACO)最終報告
1999年	11月	県が移設候補地に名護市辺野古沿岸域と表明
	12月	岸本名護市長が移設受け入れを正式表明
2003年	11月	ラムズフェルド米国防長官が普天間飛行場を視察
2004年	8月	宜野湾市の沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落炎上
2005年	10月	日米安全保障協議委員会(2プラス2)で、普天間飛行場のキャンプ・シュワブ沿岸部移設に合意 稲嶺沖縄県知事が日米合意に反対を表明
2006年	5月	普天間移設を含む米軍再編のロードマップが決まる
2009年	9月	鳩山首相が県外移設を前提に日米合意の見直しを表明
2010年	5月	鳩山首相が県外移設を断念。日米が米軍再編のロードマップ実施を再確認
2011年	12月	政府が環境影響評価書を沖縄県に提出
2012年	2月	米海兵隊のグアム移転計画が見直し

す。これは沖縄に限らず、日本全国どこでも難しい。だから、**既存の基地内に移設するしかない**と考えて、**いまの計画になりました**。

田原 既存の基地というのはキャンプ・シュワブ（沖縄県の名護市と国頭郡宜野座村にまたがる在日米軍海兵隊の基地）。代替施設の埋立地以外の陸上部分は、キャンプ・シュワブの敷地内だ、ということですね。

ラムズフェルド国防長官は「世界一危険」とは言っていない！

メア 一つ強調しておきたいことがあります。おっしゃるように、沖縄でも日本全国でも「普天間は世界一危険な飛行場」とよく言われています。そして、**ラムズフェルド国防長官が沖縄を訪問したとき「世界一危険な飛行場だ」と言ったという神話があるんです**。でも、実は元国防長官は、そんなことは言っていない。

田原 えっ、言っていないの!!

メア 日本ではそう報じられているけど、言っていないません。これは、11年9月にワシント

ンでラムズフェルド元長官と会ったとき、私が直接確かめました。03年11月に沖縄を訪問しヘリコプターで普天間を視察したのは確かだけど、「世界一危険な飛行場だ」とは断じて言っていない、と元長官は私に言いましたよ。これには自信があります。

田原 「こんなところで事故が起こらないのが不思議だ、と言った」という報道がありますが、これも言わなかったの？

メア いや、それはわかりません。「世界で一番危険」とは、間違いなく言っていない。

田原 言わなかったのなら、言ったという報道があったとき、なぜ「言っていない」と言わないんですか？

メア でも、そういうふうに報道しているから、仕方ないですよ。11年3月に共同通信が「ケビン・メアが『沖縄はゆすりの名人』と言った」と報道したのも同じでしょう。それから、琉球新報が「沖縄防衛局の田中聡局長が『これから犯す前に犯しますよと言いますか』と言った」と報道したのもそうでしょう。ほかのマスコミも、それを事実だと報じるでしょう。

田原 メディアの問題は、また後で議論したいんだけど、メアさんのときはルース大使あ

たりが「何も言うな。メディアに出て反論するな」と言ったのでしよう。だからメアさんは国務省を辞めてから本を書き、「言っていない」と反論した。でもラムズフェルドさんに反論するなと言う人はいないわけだから、「そんなこと言っていないよ」と言えればいいじゃないか。否定しなかったら世の中では「言った」になるんですよ。

メア いやいや、ラムズフェルドは全地球的な責任を負ったアメリカの国防長官。しかも当時はイラク戦争の大規模戦闘が終わった半年後で、イラクやアフガニスタンの混乱が続いていた。そんなときアメリカの国防長官が、沖縄の新聞が書いたことは本当かどうかなんて議論するはずがないでしょう。別の仕事で忙しいですよ。

でも、ラムズフェルド長官も含めてアメリカ側は、沖縄の米軍基地が重い負担になっており、騒音問題や基地の危険性に市民の懸念があることを認め、基地をできるだけ縮小して多くの施設を返還して摩擦を解消するほうが、米軍のプレゼンスを長期的に維持できる、と考えました。だから日米両政府が合意したんです。

田原 普天間をもっと安全な、辺野古のような場所に移すことには、イラク戦争を主導したタカ派のラムズフェルド国防長官も賛成だったんだ。

普天間は特別危険な飛行場ではない

メア 安全か危険かという問題で私が強調したいのは、**普天間は特別に危険な飛行場ではない**ということです。沖縄総領事だったとき、公おおやけの席で私は何度もそう言いましたが、いつも反発がものすごかった。飛行場の危険性を測ることは、ある意味で簡単です。飛行場の周囲の人口密度がどのくらいか調べ、飛行機がどのくらいの頻度で飛ぶかを調べればいいんです。その計算をした結果、普天間は日本にある民間の空港と比べて、特別に危険な飛行場ではない、と私は思っています。

アメリカの沖縄総領事の公邸は普天間の飛行ルートの真下で、滑走路の端っから800メートルくらいのところにあった。住所は宜野湾市で飛行場の南のほう。谷を一つ隔てた丘の上です。この7～8年間は、とくに多くの飛行機がアフガニスタンとイラクに行つたけど、私はそれほど頻繁に頭上を飛んでいるとは思いませんでした。実際、人口密集地にある福岡空港や伊丹空港と比べて、特別に危険な飛行場とはいえません。でも、私がそ

う説明すると、「いや、民間の空港と軍の飛行場は比較できない」という反論が返ってくる。そんなことは関係ないでしょう。**軍用機も民間機も落ちるときは落ちるのだから。**

田原 いや、軍用機は過酷な運用をするし、実弾を積む場合もあるから、それはそれで危険ですよ。04年8月には海兵隊のヘリコプターが、普天間飛行場に道を隔てて隣接する沖縄国際大学の構内に墜落した事故があった。ヘリは大学本館に接触し炎上。建物の一部が壊れたり樹木が燃えたりし、ヘリの部品が落下や飛散して近くの住宅に飛び込んだ。

メア ヘリ乗員3名が重軽傷を負った以外、幸い民間人の負傷者は出ませんでした。

田原 でも、大学のすぐそばに保育所や小学校があったから、そこに墜落しても不思議はなかった。1959（昭和34）年6月には、沖縄県石川市（現・うるま市）に米空軍F100Dジェット戦闘機が墜落。民家35棟をなぎ倒しつつ宮森小学校に突っ込んで炎上し、小学生11人を含む死者17人、重軽傷者210人を出す大事故もあった。

メア たった一度でも被害者が出る事故が起こればそれは大変悲劇的で遺憾なことです。だからこいつも安全性を高める必要があると思います。

Google Mapほか、各種資料より編集部作成

田原 普天間飛行場を上から見ると、細長い滑走路の先、離陸するときの前方は空き地になっっている。でも滑走路の左右は、飛行場の敷地ギリギリまで民家が迫っています。こんな海兵隊の飛行場は、アメリカ本国や他の国のどこかに存在するんですか？

メア いや、普天間ほど民家が近い飛行場は、たぶんありません。なぜかというと、普通は地元の自治体がそんな場所に住宅を建設することを許さないから。

田原 ところが、普天間というか、宜野湾市は許してしまった。

メア そう。最初から市長が建設を禁止すべきでしょう。宜野湾市の伊波洋一・元市長がよく言っていたのは、こんなことです。米海軍省が92年に出した『海兵隊航空基地普天間マスタープラン』には、離着陸時の安全を確保するために滑走路の前後に幅400メートル、長さ数百メートル以上の「クリアゾーン」を台形状に設定することになっている。にもかかわらず、現実にはゾーン内に小学校、公民館、ガソリンスタンド、約800戸の住

基地周辺に住宅や小学校が建てられたのは、市が許可したからである

宅などがあり、3600人以上の住民が暮らしている。これはおかしいと。

田原 その主張に、アメリカはどう応えるの？

メア 私が元市長に言ったのは、普天間基地の外のどこに何を建設してよいと許可を出す権限は、アメリカにはない。アメリカにある海兵隊飛行場の周囲に住宅がないのは、米軍ではなく地元の自治体が、建設を許可しないから。飛行場の周囲の建設に許可を出すのは地元の市役所。だから、飛行場のそばに住宅や小学校があつて危険だという苦情は、アメリカに対してではなく、建設を許可した宜野湾市に対して出すべきでしょう、と。私は「文句があるなら自分に向けるべきですよ」と伊波洋一・元市長に言いました。

田原 そう言ったら、どうなった？

メア 怒ったよ（笑）。戦争の結果、米軍に土地を取られたことを怒る人々の気持ちは、よくわかります。でも、それと基地の周囲に住宅が迫っている問題は別でしょう。

田原 戦争末期の1945（昭和20）年4月、米軍は宜野湾村北隣の北谷村海岸^{ちやんせん}に上陸し1週間ほどいまの宜野湾市域を制圧した。6月頃からは、米陸軍工兵隊が宜野湾村中部のなだらかな場所、サツマイモなどを栽培するのどかな農村地域に、日本本土への出撃

基地として使う飛行場を建設した。基地内に役場、小学校、農家、畑、お墓などが含まれていたんだ。8月15日に戦争が終わり、秋になって住民たちが避難先や収容所から家に戻ると、一帯は強制接収されて飛行場となって、立ち入り禁止になっていた。

メア でも、当時は市街地はなかった。航空写真を見ると、70年代前半まで人口密度がすごく低かった場所で、飛行場の周辺に農家が点在していたんです。いまはフェンス脇まで住宅がある。それを許可したのは宜野湾市です。近くに小学校もあつて、反基地政治家がいつも危ないというんだけど、その建設を許したのは宜野湾市です。

小学校が本当に危険だと思えば、移転すべきでしょう。日本政府は移転費用を出す用意があると何度も打診したし、私も伊波元市長に言ったことがあります。ところが、伊波元市長は小学校の移転には応じない。基地そのものを閉鎖すべきだという立場だから、危険なはずの小学校はそのままです。私が著書に、元市長は小学校の移転に反対で、小学校の危険性を政治的に利用したと書いたら、彼は11年10月に私を名誉毀損で刑事告訴しました。

田原 その後、検察が事情を聞きたいとか、何か動きはあつたんですか？

メア いえ、私は何も聞いていません。元市長は告訴の直後、沖縄県庁で記者会見をし

した。なんで民間人が県庁で記者会見できるのか、私はおかしいと思った。そのときマスコミがコメントしてほしいというから、私は「本の記述が事実で、告訴は不当です。いい大人の政治家のくせに、批判されて告訴するのは、泣きながらお母さんに告げ口する子どもみたい」と言った。これもマスコミは、前半しか報道しませんでしたけど。

普天間が固定化されても、米軍には何の不都合もなし

田原 確認したい。米軍としては普天間飛行場が特別危険な基地だとは思ってない？

メア そうです。思っていません。

田原 では、日本政府が現在の移設計画を実行できなくても、あまり問題はない？

メア 残念ながら、日本政府が現在の移設計画を実行できない可能性は、かなりあると思います。実行できなければ、現在の海兵隊普天間飛行場をそのまま使い続けるしかありません。もちろん周辺住民の危険性に関する懸念を払拭する努力が必要ですが、基本的に特別に危険な飛行場であるとは思っていません。

田原 ということは、辺野古への移設が不可能になり、普天間の固定化という事態になっても、アメリカや米軍には、何の不都合もないんですか？

メア 基本的には、そうでしょう。いまの普天間の運用で、抑止力を維持することができていますから、戦略的にもとくに問題はないと思います。

田原 じゃあ、アメリカあるいは米軍は、辺野古に移りたくない？

メア いや、そんなことはありません。日米両政府の合意通りに移設を実現したい。

田原 長年使ってきた普天間飛行場に慣れているし、とくに危険でもないなら、辺野古であれどこであれ、移るのが面倒なだけじゃないか。本当は移りたくないのでは？

メア いや、違います。海兵隊の運用上のことだけを考えれば、普天間のほうが辺野古よりいい。なぜかというと、普天間は滑走路が2700メートルありますが、辺野古の滑走路は1800メートルと短いからです。しかし、運用上の問題以外に、普天間の周囲でいろいろな摩擦が生じているから、移転して摩擦を解決し、沖縄の負担を軽減したほうがいい。だから米軍は、移設計画を実現して長期的なプレゼンスを維持したい。

田原 移設した暁には、どのくらいの負担軽減になりますか？

第2章

民主党の迷走、 アメリカはここに あきれている！

メア 沖縄本島の面積のうち18%以上を占めている米軍施設は、再編計画を実現すれば、12〜13%に削減される予定です。それでも現在の抑止力を維持できる。2005年に合意された計画の重要なポイントは、**沖縄の負担軽減と抑止力の維持の二つ**なのです。

田原 アメリカの普天間に対する基本的な考え方は、だいたいわかった。自民党政権は、05年以降に固まった計画をほとんど前進させることができないまま、09年秋の政権交代に至ります。そこから先は次章でうかがいます。